

今月のことば

あやまち
人生をきめない
あやまちの
あとが
人生をきめる

(ブツシュ孝子『暗やみの中で一人枕をぬらす夜は』より)

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき
小池秀章

「あやまちは誰でもする／つよい人も弱い人も／えらい人もおろかな人も／あやまちは人間をきめない／あやまちのあとが人間をきめる／あやまちの重さを自分の肩にせおうか／あやまちからのがれて次のあやまちをおかすか／あやまちは人生をきめない／あやまちのあとが人生をきめる」

これは、ブツシュ孝子(旧姓・服部孝子)さんの、「あやまち」という詩です。孝子さんは、病の為、28歳の若さで亡くなられました。詩を書いたのは、人生最後の半年足らずだったそうですが、92編の詩を残されています。その中の一つが、この「あやまち」という詩です。

過ちは、誰でもします。過ちをしない人間なんて、一人もいません。大切なことは、過ちを犯してしまった時、過ちを過ちと認め、しっかりと受け止めることなのです。

しかし、「過ちを過ちと認め、しっかりと受け止める」のは、とても勇気のいることで、簡単なことではありません。過ちをごまかそうとしたり、過ちから逃げようとしたり……。それは、過ちと正面から向かい合うと、過ちの重さに押しつぶされるのではないか、他人から非難されるのではないか、などと考えるりすることが、原因かもしれません。

「過ちを過ちと認め、しっかりと受け止める」。それは、過ちを犯してしまった私を、決して見捨てないという、大きな世界(仏さまの心)に出遇つてこそ、本当に出来ることだと思います。

合掌